

Point of note

■ 地域介護ネットワーク

福祉情報事業団が開発した「カイゴリアン」は、要介護者を医療、看護、家族などと地域の連携で結ぶことを目指した、いわば「介護的 SNS サイト」。これまでの線的なつながりではなく、地域全体でインターネットを通して面的につながることで、要介護者を見守る狙いだ。



地域がつながることで、必要な情報が意識せずとも入手できる。「この仕組みを世の中の常識に」と熊田さん。



福祉健康産業展にて河村名古屋市長へのプレゼン。



同じ志を持つ仲間たちがいるから、頑張れる。



介護を現場目線で学んでいた 30 歳の頃。



熱弁を振るう熊田さん。福祉への愛情と熱意が溢れる。

「人と人が向き合い、結び合っていること。それが、福祉の『常識』になることを目指しています」

熊田さんは16年、新たなサイトを発表予定だ。それが、介護的 SNS サイト「カイゴリアン」。熊田さんはこのサイトを、世の中の常識として広めていきたいと考えている。

「要介護者の皆さんは、地域の皆さんとのつながりを保つこともっと見守られると思っています。例えば、喫茶店とか郵便局などお年寄りの行きつ

「これからの世の中の常識に！」
熊田さんの熱い想いがかたちに

STEP 3 今後の展望

らの紹介で日本政策金融公庫を利用することができた。元より起業を目指して自己資金は貯めていたが、将来を見据えて融資を受けることに決めた。そして、愛知県内の介護施設の利用情報や、その施設の特徴やサービス内容を紹介する情報サイト「ケアリンク愛知」を開発。要介護者とその家族、ケアマネージャー、介護施設スタッフなど、介護にかかわるあらゆる人たちが「今」の情報を知ることができるようサイトだ。

「介護は基本的に、住んでいる地域で受けるもの。その地域のインフラを知らなければ、生活をコーディネートできないです。つまり、介護にまつわる地域情報の連携にケアリンク愛知は有効なのです」

Profile

株式会社
福祉情報
事業団
代表取締役
社長
熊田光臣さん

プロボクサー、豊橋市高齢福祉課を経て、2012年8月に株式会社福祉情報事業団を設立。「介護を次の世代の宝物に」を理念に掲げ、時代に沿った福祉のあり方を追求している。

けの場所は多くあります。そんな場所からの現在情報はとても大切。「常連さんのあの人が今日は来っていない」などといった小さな情報が、医療や介護への大事な連絡につながることも多いのです」

自分にとって大切なつながりをカイゴリアンでつくっておくことで、見守る人も見守られる人も必要な情報を意識せずとも得ることができるよう。医療、看護、家族、地域が面的な情報網でつながれる。そもそも日本の社会に根づいていた有機的な人のつながりを利用するため、これがこれからの介護の「常識」になることが期待される。

知識も経験もなく突然入ってしまった介護の現場で四苦八苦していたとき、人と人との心の結びつきによる独自の方法で要介護者の方々と接してきた熊田さんの熱い思いは、こうして具現化された。その熱さが衰えることはなく、さらなる飛躍が期待される。



株式会社
福祉情報
事業団

<http://care-link.jp/>

元プロボクサーの熊田光臣さんが名古屋市に設立したのが「株式会社福祉情報事業団」。何も知らずに入った福祉の現場の経験から得た発想を具現化している。その根底に流れるのは、「人」同士の結びつきだ。

会社概要

所在地：愛知県名古屋市中区新栄 2-2-24
あいちベンチャーハウス 302号
業種：情報提供サービス業
資本金：700万円
設立：2012年8月
従業員数：5名



STEP 1 創業のきっかけ

知識も経験もゼロの介護の現場だからこそ客観視することができた

前職の豊橋市役所への就職が決まった熊田さんに高齢福祉課への配属が告げられたのは入職の直前だった。突然の欠員補充に新人が充てられたのだ。「最初は介護への興味は全くありませんでした。当然、周りは元看護師や福祉大学出身者といったその道のプロばかりで、私だけが素人でした」。プロボクサーとしても活動していた熊田さんは、持ち前の負けん気と努力で日々独学に勤しみ始める。「やはり、負けたくない一心でした。『何も知らないボクサーが適当にやるとるわ』と思われるのが嫌でした。同僚に比べて介護や保険の知識が乏しいのは否めない。そこで、熊田さんは勤務する施設の入所者一人ひとりと接していき、自分たちの介護を受ける人たちと心を通わせることから始めた。その人たちのことは職員の中で自分が一番知っていることを目指したのだ。「そうなるとお互いに親近感も生まれますし、情が湧いてきます」。しかしそれは、行政が行っている福祉とは全く逆のアプローチであることに、熊田さんは徐々に気付いていく。

勤めていた施設は昔の措置制度に基づいてつくられた経緯を持ち、旧態依然

然とした空気に覆われていた。新しいやり方は受け入れられず、かつ赴任した所長は3年で異動していくため、腰を据えて施設を良くしていくこととする風潮はなかった。個人個人に合った介護を行う柔軟性はなく、一律に同じ対処法で介護が行われていた。熊田さんはこの状態を理不尽に感じた。「怒りすら感じていました。でも、上司に提案した改良案はことごとく受け入れられませんでした」。負けん気はさらに燃え上がった。自腹で勉強会に参加し、民間の介護施設の実情を学んだ。徐々に人のつながりも広がっていった。「何の知識もないまま配属されたおかげで、介護の現状を客観視できたうえ、現場での経験を積めたため、疑問点やアイデアを出していくことができました」。これが、後の創業の原点だと熊田さんは振り返る。「介護や福祉を良くするためにどうすればいいのか」を考え続け、その結果が「福祉情報事業団」の設立となったのだ。

STEP 2 事業スタート

介護には地域の連携が必須！
「ケアリンク愛知」開設

8年間勤務した市役所を退職し、2012年8月に「株式会社福祉情報事業団」を立ち上げた。会社が入居している「あいちベンチャーハウス」か